



リ  
テ  
イ  
ク  
地  
獄

R-18

ここが地獄なのか

悠二・

悠仁・

今日から君たちは兄弟だよ  
かぞく



...宿儺じゃん?

# リテイク地獄

それは唐突だった。

深い眠りから急激に覚醒したような、出掛け先で買おうと思っていたものをふと思ひ出したような、唐突な意識の目覚め。気づけば、ここに立っていた。

取り囲む景色に見覚えはなく、

自分が何をしていったのか

前後の記憶もない。この状況を何

ひとつ理解できなかつた。ただ、

ここではない、という否定の感情

が溢れる。自分が知っている世界

はここではない、と。

自分が何者であるかなど、己が

一番よく分かつているはずなのに、

今ここにいる自分は何なのか？

自分はこんな場所知らないというのに、

周りは自分の存在がさも当たり前のように接してくるのだ。

それも、まるで小さい子を相手にするかの

ように。いや、まるで、ではない。

事実、今この身体は子どもだった。

自分が記憶する自分の姿より、

だいたい幼い、子どもの姿。

## 第一幕

そうだ、自分は高校生だった。こんな全てを見上げるような身長でもなければ、

頼りない手足でもなかつた。なぜ自分は

こんな姿で、こんな場所にいるのか？

思考はますます渦を巻き、不安と緊張が

身体を支配していく。

まさかこれも『呪い』なのだろうか。

自分の意識だけがここにあつて、

身体は今もあの世界にあるとか。

呪いを祓わねば元の世界に戻れないとか？

などと祿に回らない頭で考えても、

もうひとつの圧倒的な違和感が、

その可能性を否定する。それは、以前は常に

知覚していた、己の裡のもう一つの存在。

その魂を感じとることができないのだ。

この世界に『呪い』というものが存在しない

としたら、呪いが原因ではない、

ということになる。

：まさか、自分は死んだのか？

死んで生まれ変わったとでもいうのか？

それとも、

死んで、落ちた、この場所こそが――



まあ  
ニコニコされても  
こえーけどさあ!!  
一緒に暮らすなら  
返事くらいー



って  
無視かよ





待ち受けているのは  
地獄だけだぞ



夢

じゃねえ

これは  
俺の記憶だ

『今』とは違う  
呪術師として過ごした  
世界での：

全て覚えているのに  
「最期」だけが分かんねえ  
俺はどうなった？  
皆は？

俺は何で  
『ユユ』にいる？  
『ユユ』は何だ？

『俺』は  
『ユユ』にいる



宿儺なら  
何か分かるのか？

俺の記憶のこと  
この状況のこと

それとも

はよっス!!

まずは  
そこからだな!

…とにかく  
話してみねえと



おーい  
いねえの!?

ドドド

全っっっつ然  
話せねえ!!

ヤケクソ

もしもーっ



無視

スルー

あ  
なま  
ちやうと  
南まはた

なんて  
意気込んでは  
みたものの：



ごめんなさいね  
あの子は昔から  
こんな様子で：

会えな

今日土曜日  
アッ  
かき  
かき  
かき



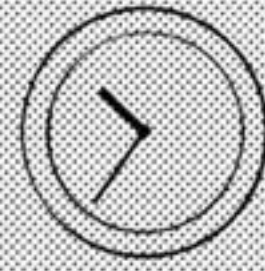
不在



：私が  
至らない義母親  
だから：：つ

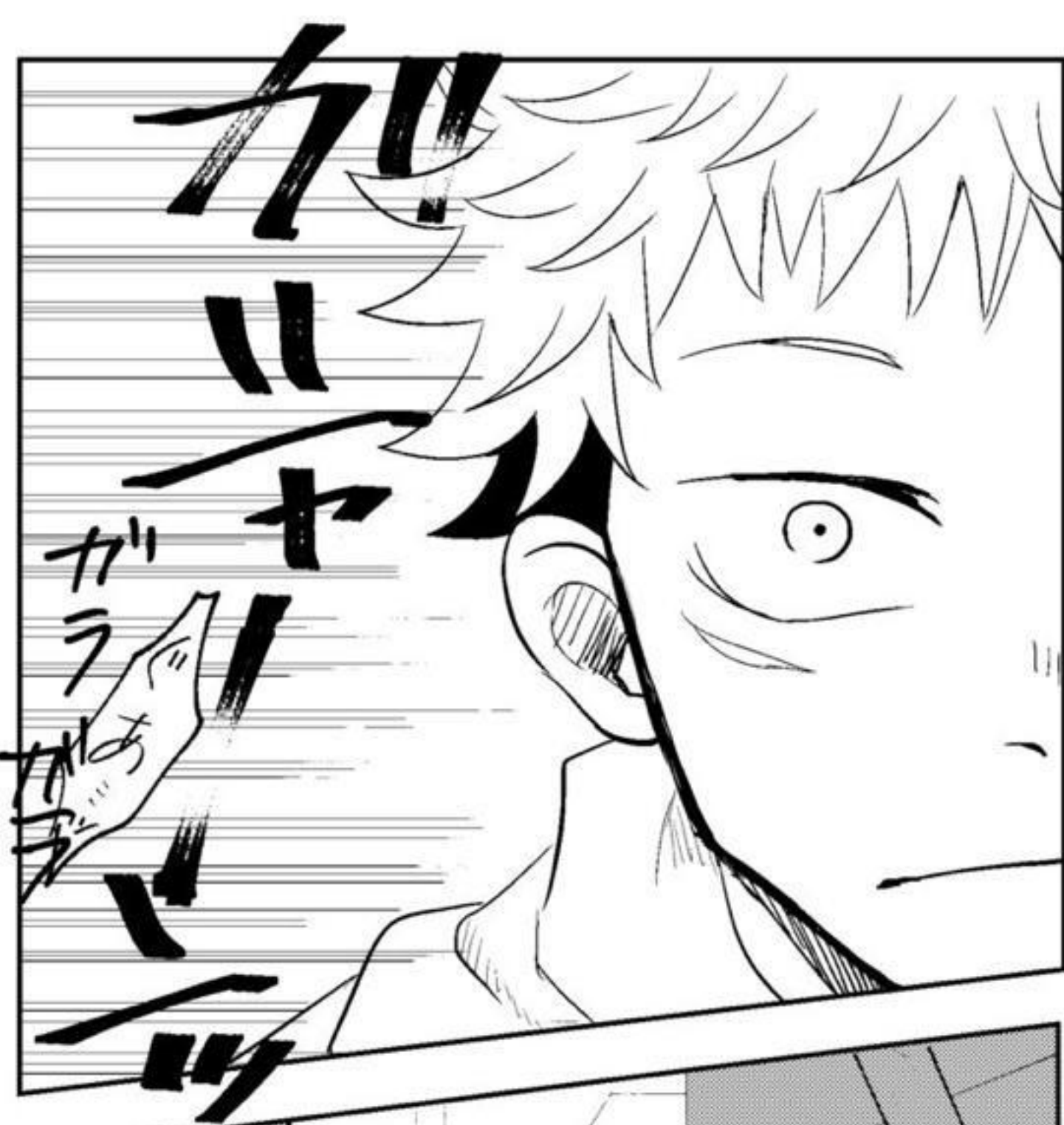


帰ってこない



\*PM

帰ってこない  
帰ってこない  
帰ってこない







離せ



にしてんだよ……!



お前には  
関係ないだろう

俺の  
邪魔をするな

…おい



離してやるよ

あの人が  
行ったらな

ひっ……!

た

!

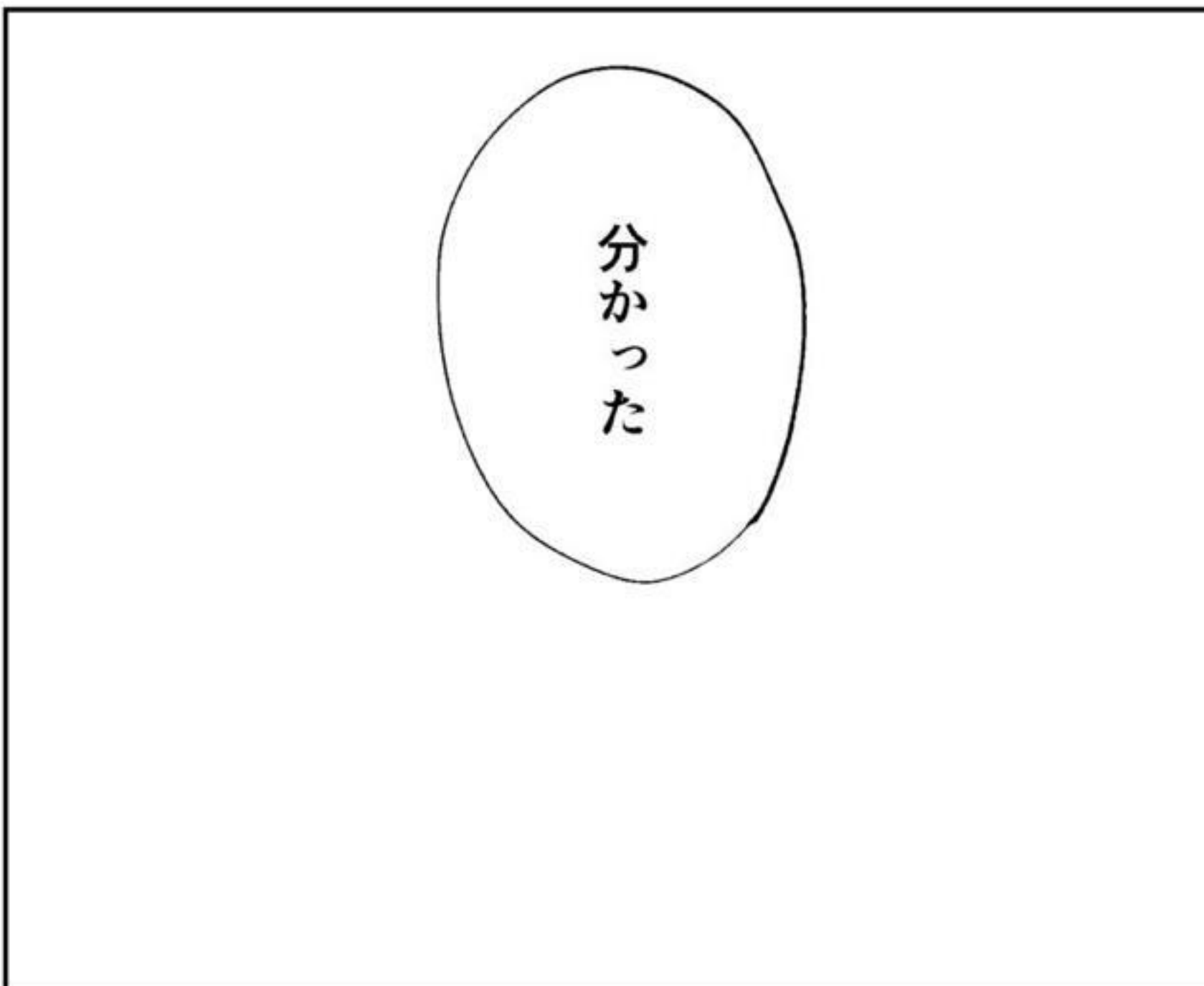






他の誰も傷つけないと  
約束しよう

お前以外、誰も



分かった



— 第一幕 — 終



全てが夢だったのかと思ひ始めていた。ここには自分を育ててくれた人も、出会った仲間も、誰ひとりいなくて、

この記憶を肯定する根拠が何ひとつとしてなかった。

自分は今までの（前世になるのかも）ないが記憶を信じている。けど、真実だと思っていたこの記憶も、自分の妄想ではないのか？自分という存在が曖昧で、自分自身を信じきれなくなりそうだと。それでもやっぱり自分は自分で、そこを疑ってしまうと前に進めない。

：「前」ってどこだ？だめだ、考えるな。

無理矢理にでも足を出して進むのだ。

この先に答えがあるのなら。

そうして歩んできた道の先で、お前と

出遭った。ひと目で分かる。かつて自分

の中にいた存在、記憶の中こびりついて

剥がれないソイツ。相對した時の感覚が

まさまざと蘇る。―ああ、ここでもお前と

一緒なのか。そうだと、記憶でもお前との

出遭いが全てを変えた。まさか、この世界

も、今お前と出遭ったこの瞬間から始まる

というのか。いっただいなんの因果なんだ。

## 第二幕

お前なら何か分かるのか？

この世界のこと。自分の記憶の世界のこと。聞きたいことはたくさんあって、でも何をどう聞けばいいのか分からない。

この世界が偽物だとして、壊さないと元の世界に帰れない、そう言われたとして、自分はこの世界を壊せるのだろうか。この世界が憎いわけではない。親代わりに育ててくれた人も、優しい人も、仲良くしてる人もいる。

この世界で生きてきた自分が、この世界の終わりを否定している。でも、壊さないといけないと言われたら、自分は……

そんな躊躇いも、ソイツに一刀両断されるかと思つたが、予想に反してソイツは何も言つてこなかった。ここはお前にとって都合がいい世界なのか？疑惑は増える一方で、不安は一層募つていく。けれど、この世界のソイツは満足しているようには見えない。

むしろ、不安定に彷徨っているように感じる。もしかして、お前も同じなんじゃないのか。自分という存在が、その輪郭が捉えきれないんじゃないか。

お前が何かを探しているというのなら、きつと、それは。



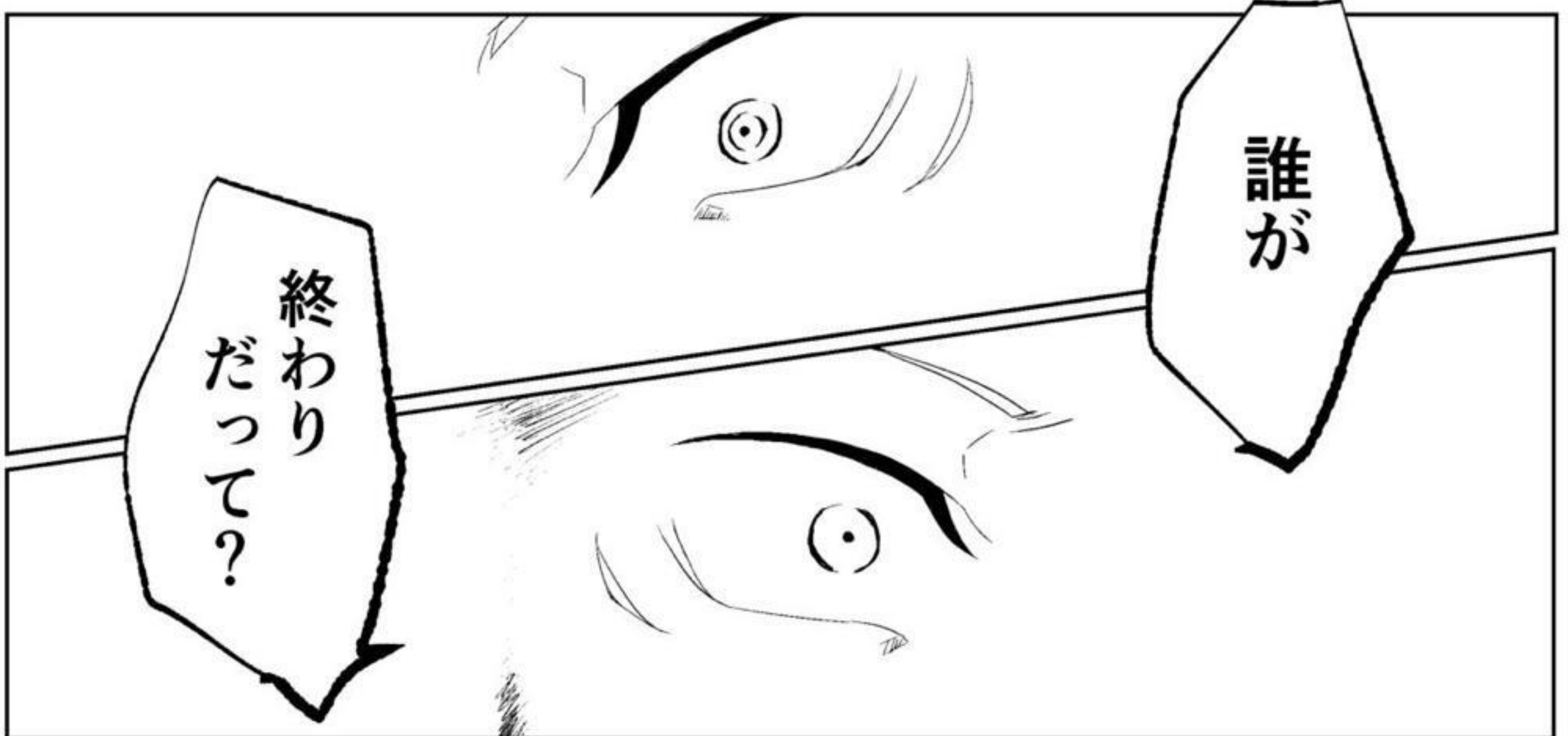
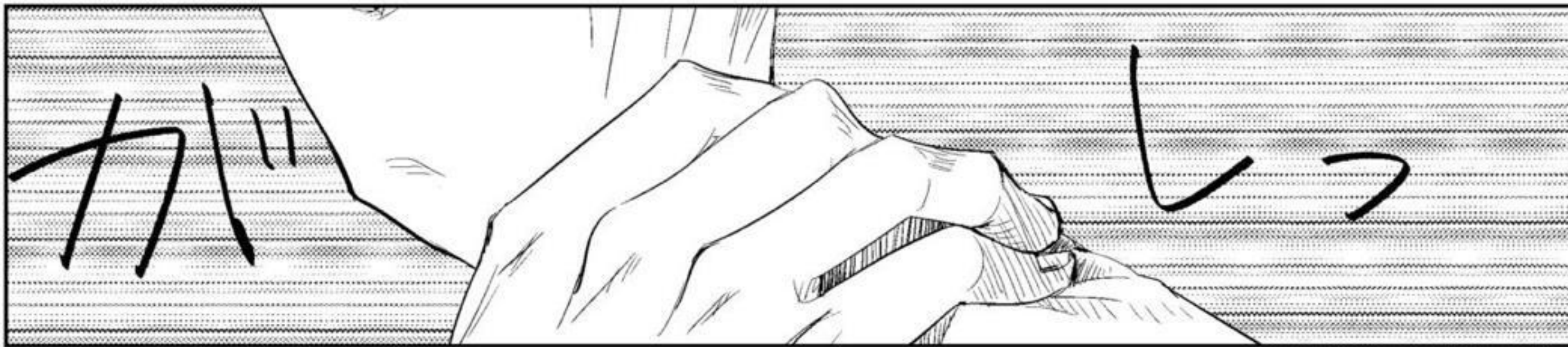


しん  
しん  
……!

せいでい  
足掻いてみせろ

とっさに掴んで  
直撃は免れたか  
いいぞ

しん  
しん





ガッ

言っとくけど  
この程度じゃ  
俺は折れねえぞ

顔だけ  
バカスカ殴りやがって



テメエの拳なんざ  
尻でもねえからな





やっぱ  
つえーなオイ

顔面割れるかと  
思ったわ

血塗れに

しやがって  
もくもく

グ  
グ



なぜ

倒れない



ああ  
不愉快だ



『虎杖悠仁』



ああ 心底どうでもいい



俺は何か忘れていないのではないか？



オマエの

俺は

何を

何が

分からない



その

真っ直ぐ  
見据える瞳が

まるで俺のことを  
分かってるかの  
ような口ぶりが

「テメェからしたら」  
だとか

ひどく腹立たしい



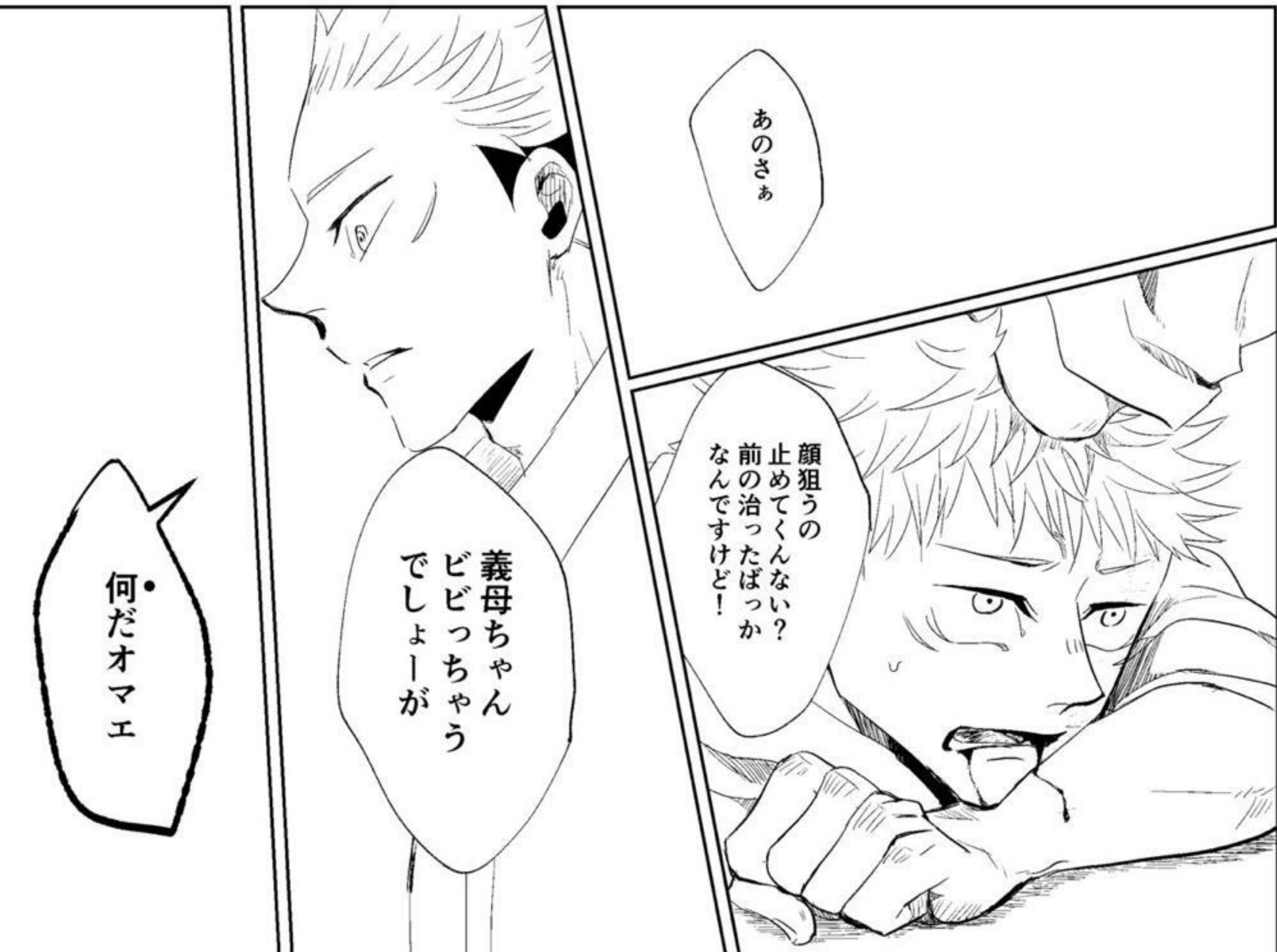
ただのバカか



どうせすぐに  
音を上げる



バ  
キ  
イ





風呂  
先に  
入る？

何？

やり返してくることも  
態度を変えることも



どれだけ  
痛めつけても



今までの奴らのように  
跪いて許しを乞う  
こともない



どうすればこの苛立ちは消える



どうすればオマエの心は折れる

…方向性を  
変えるか

カリ

カリッ

は？

っおい！  
風呂入る  
ならそう言

え

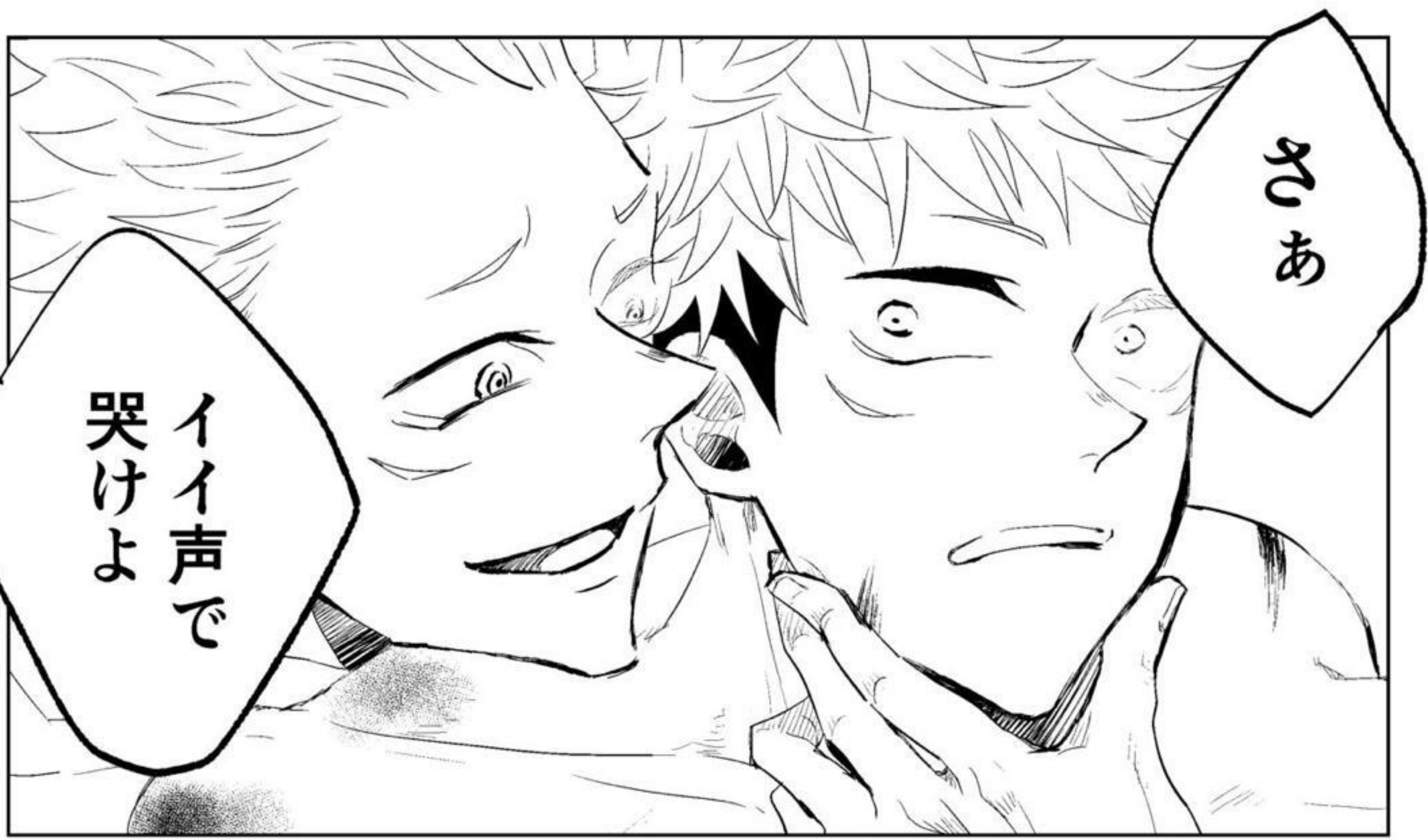
泣き叫んで  
いいぞ

義母親が心配して  
来るかもしれんがな

スル

だん





さあ

イイ声で  
哭けよ

アキ



なんだ

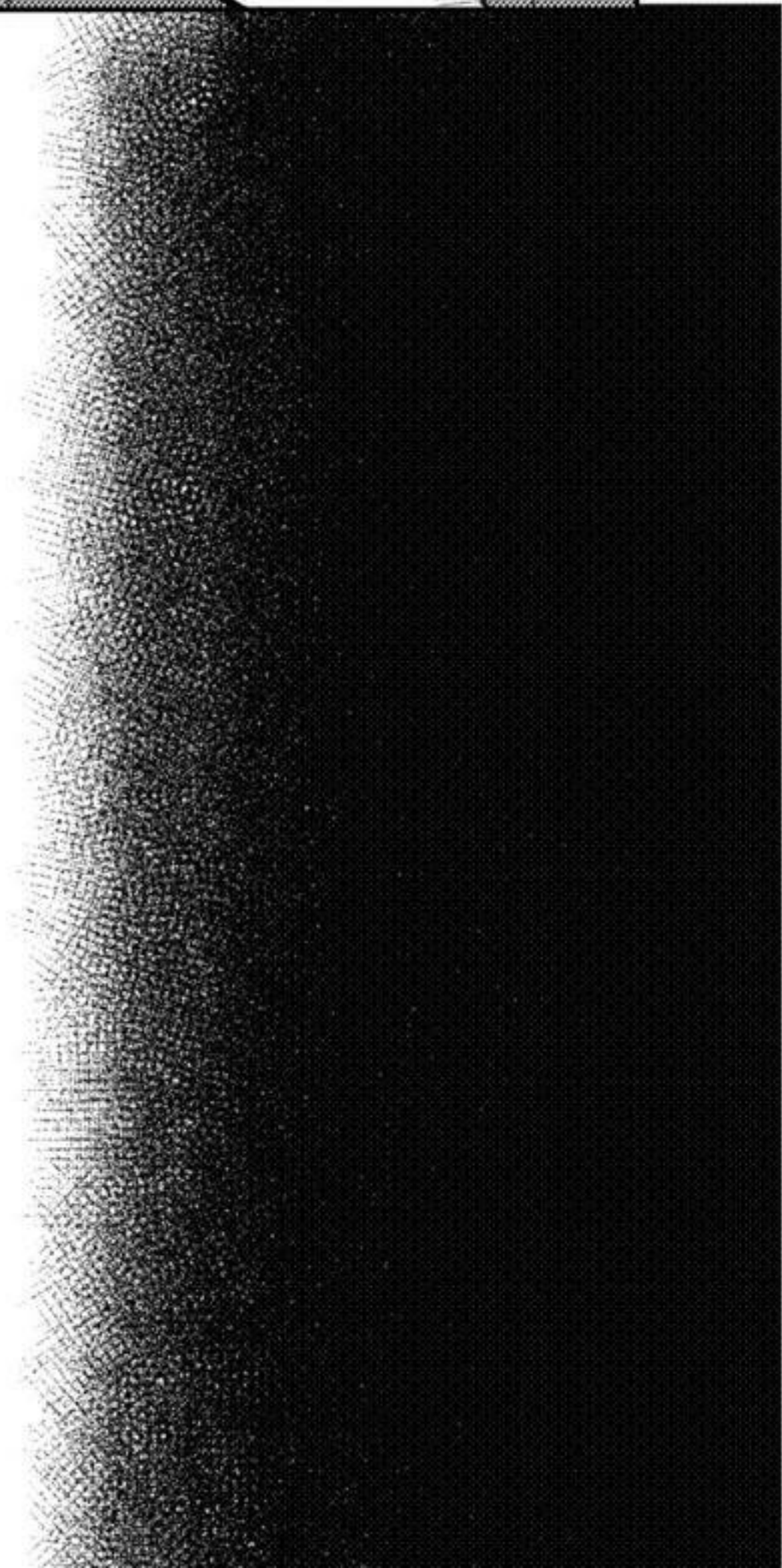
堪えたか  
つまらん

!!?

ツブッ  
あ

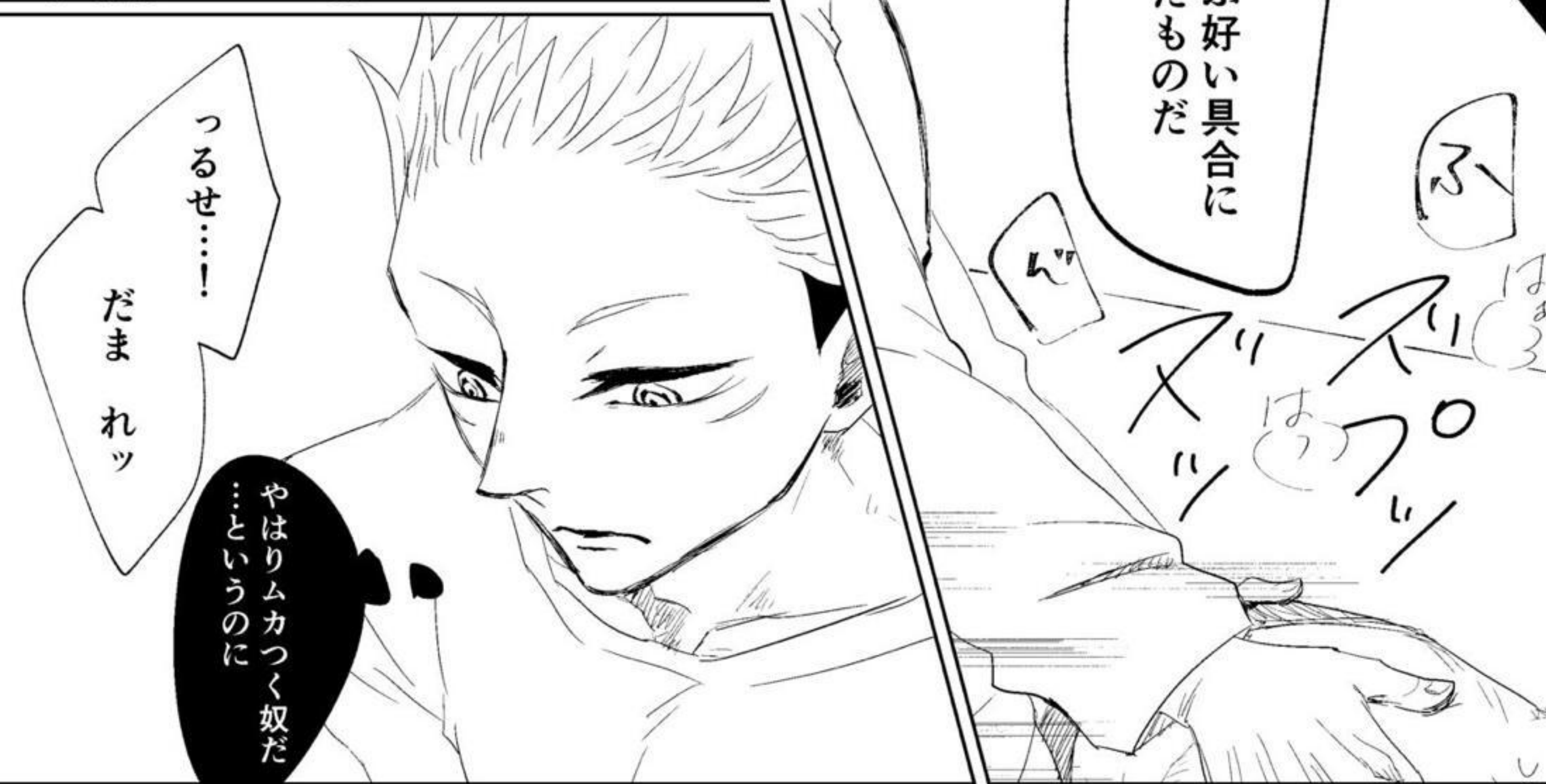








どうやら  
オマエには



なぜか  
こいつの体温は  
酷く馴染む



.....?  
止まった...



まるで  
自分の一部  
かのように

ずっと昔から  
知っている  
かのように—





俺「オマエ」のこと  
ちゃんと見てなかった

…わりい



…馴れ馴れしく呼ぶな

オマエ  
悠仁だけだ



—悠二—

自分の事とは  
思えない名前  
同じ響きをする  
オマエの名前  
曖昧だった自分の存在  
その輪郭を頭にできるのは  
きっと

己とは何なのか？

# 第三幕

---

その答えはお前の裡にある。







# ロイヤル





今までと  
全然...!

何だコレ

何?

え?



こんな無理!!

…挿れただけで  
イッたか



嫌?  
こんなに可愛がって  
やってるというのに

こなの  
いやだ  
やだ  
なに?..  
こなの?..  
はー  
はー



そうか  
痛くされる方が  
好みだったか

ならこれからは  
うんと優しく  
してやろう



さあ 死ぬほど  
善がらせてやる

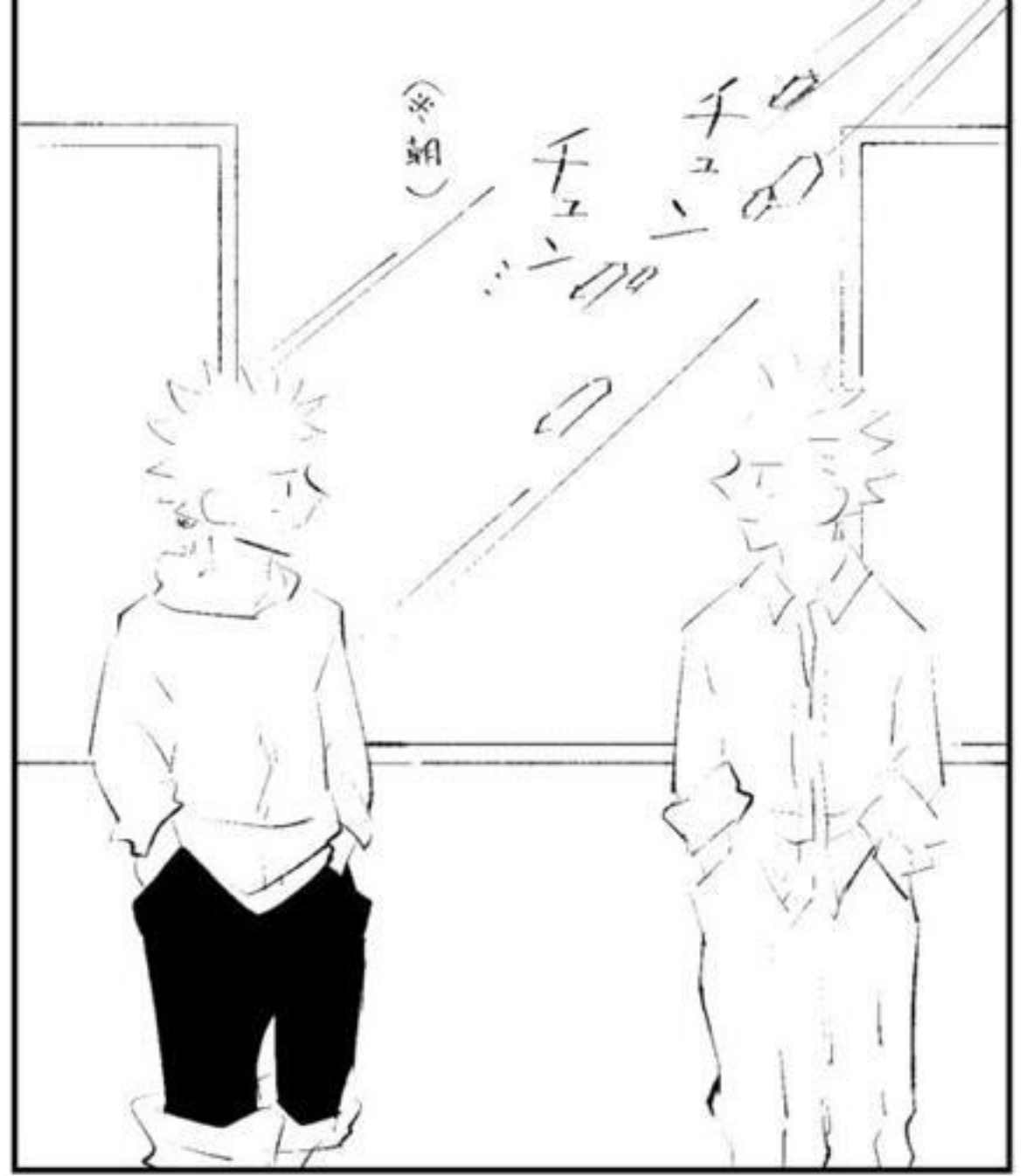
ほら  
頑張れ  
頑張れ

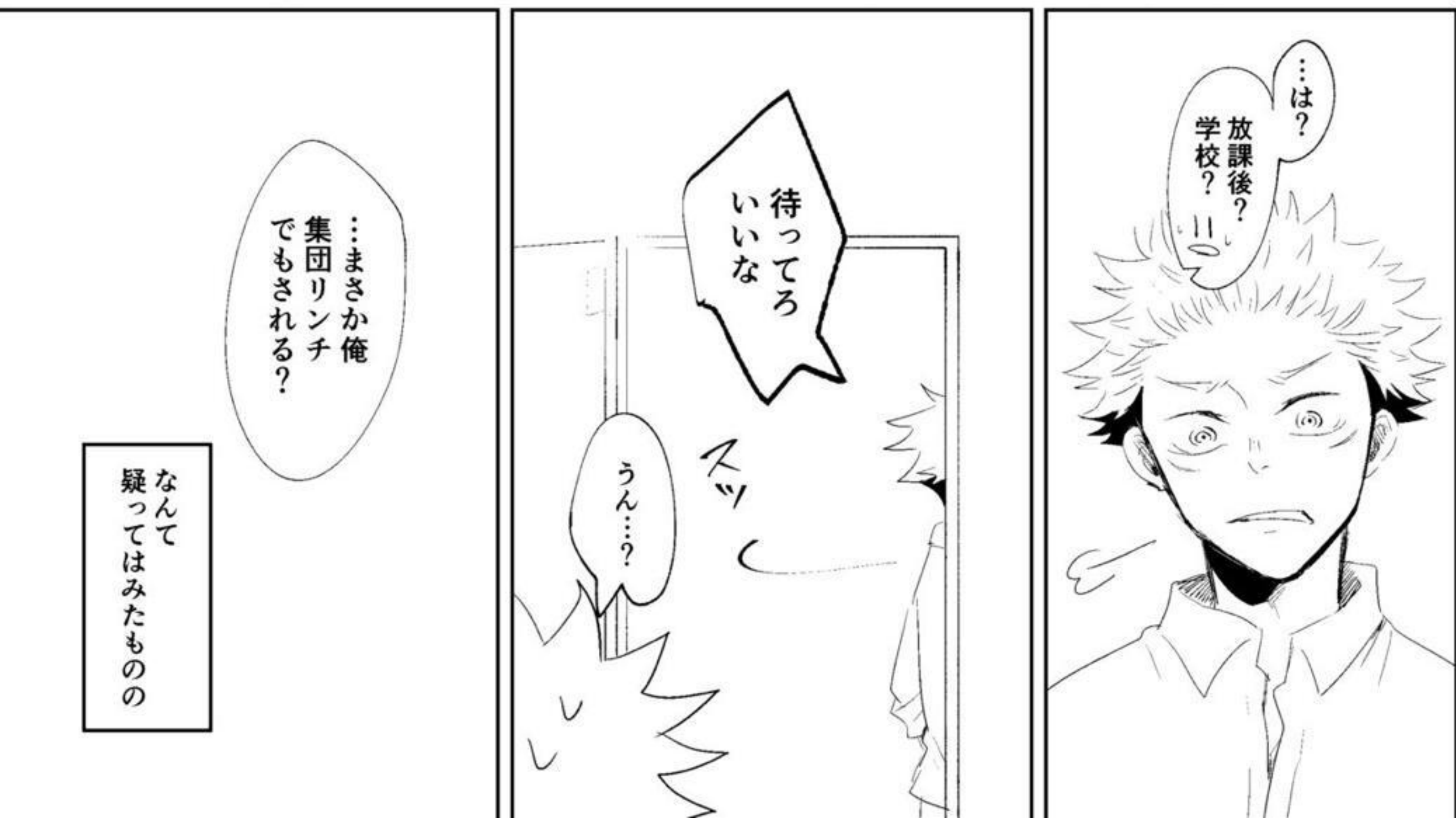



痛み方が  
よっぽどマシ  
だったの...!!

好みじゃ  
ねえけどっ

「オマエが傷つく」ことが  
条件だからなあ  
痛いのが好きなら交換  
条件の意味がないだろう









今のアイツは  
そんなことししない  
と思う

俺が信じすぎてる  
だけかもしれねえけど



アイツを見て  
やっと分かった

アイツ  
悠二には  
宿儺の記憶はない



俺が勝手に  
悠二を通して宿儺を  
見てただけで

アイツは「悠二」で  
宿儺じゃない  
悠二という一人の  
人間だ

じゃあ  
俺のこの記憶は

おい!

テメー  
ちよろつと  
ツラかせよ?

ザ

だん  
な  
おし  
悠二

ツ  
わ  
あ

!!!

もう三ヶ月たつ  
のにまだ治ん  
ねーんだぞ!

この腕!  
見ろ!  
こんな  
されちゃ  
一発殴らねーと  
気が済ま  
ねえよ!

こっちにや  
テメーに恨み  
があんだよ!

知らねーよ

宿:  
悠二だな

ざっけんな!

はあはあ!?

わりーな

人待ってる  
から無理

いや





はっ

あたりめーだろ!

あ!

はっ

はっ

しっ

はあ?

…で?  
オマエがいう通り  
殴られてやったら  
気イ済むのかよ?



まあいこ

おっまー

…何してる

とりあえず  
死ね





知

オマエもオマエだ

さっきの拳  
受けるつもり  
だったろう

他の奴に簡単に  
手を出されるなど  
自ら殴られるなど  
もっての外だぞ



あれだけ  
教えてやったと  
言うのに

つちよ

おい!?

まだ自覚が  
足りないらしい

スル...



あのなあ...  
元はオマエの  
せいだからな?

けど一応  
穩便に済まそうと  
したんじゃねーか

俺の代わりにか?

どの立場で  
ものを言ってる

オマエが  
誰のモノなのか

くそ……ッ

こんな  
外でとか……!

……いつもより  
敏感だな?

……  
良い趣味をしている

ちが  
んッ

盛ってきたのは  
テメエだろーが!  
やっぱ偉そうだな  
コイツ……!

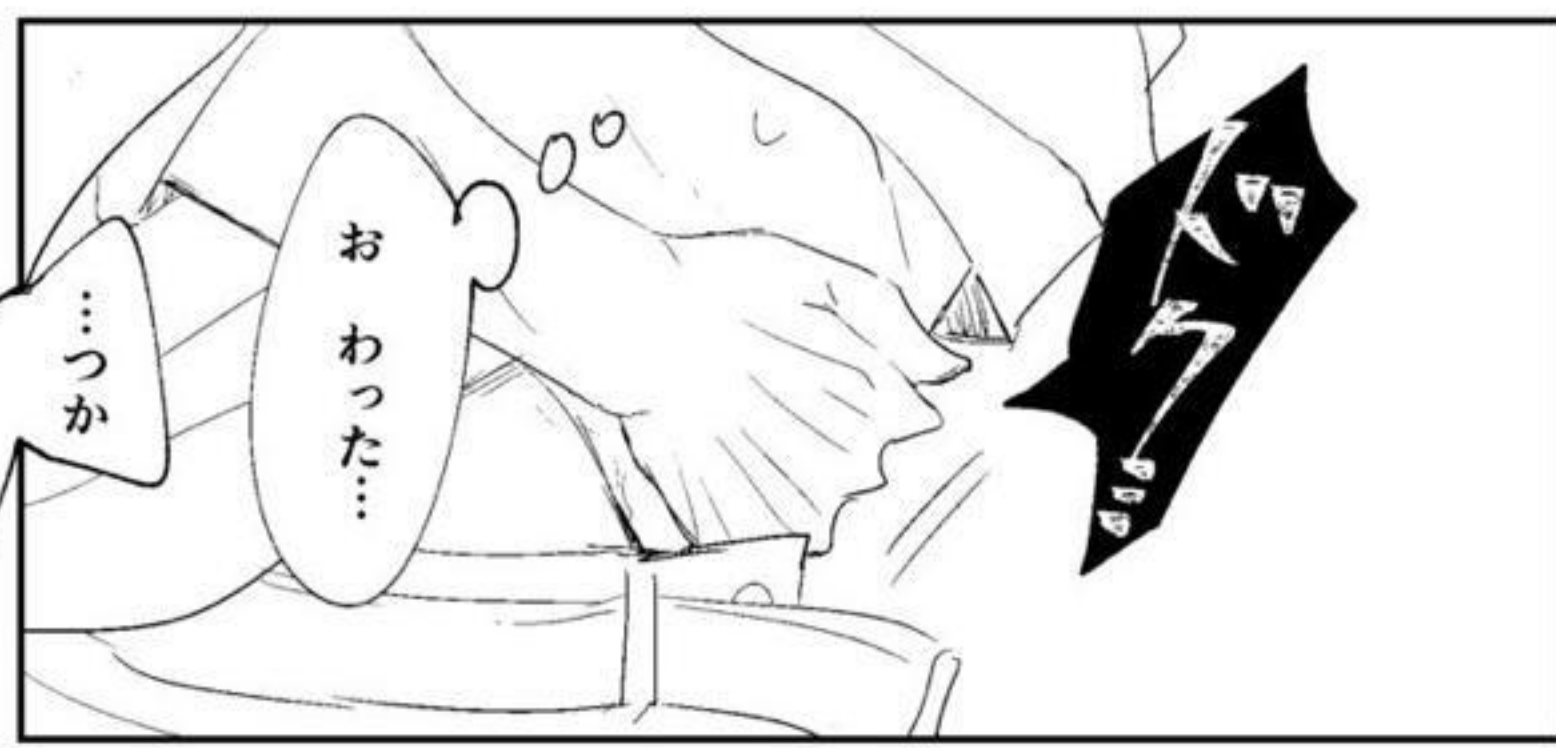






はやく  
イけって……!

宿儺あつ

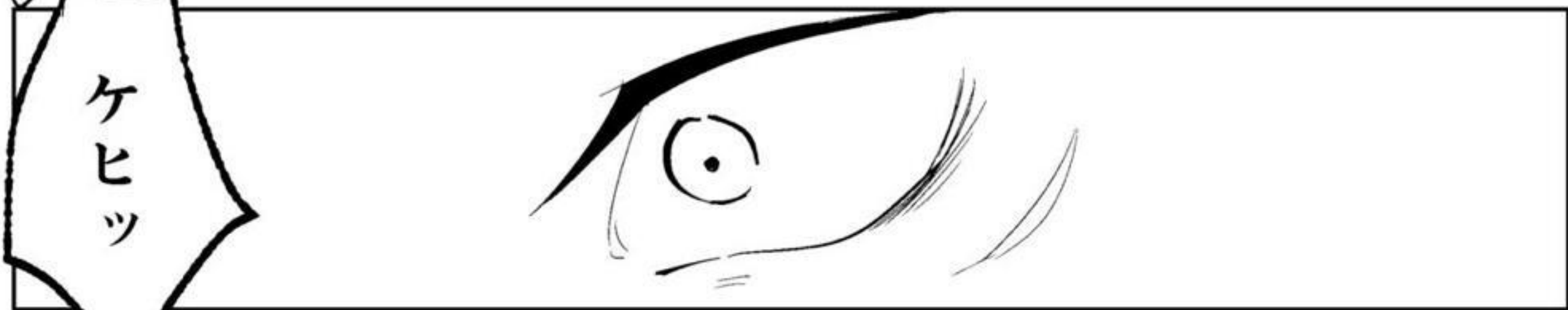


…っか

今  
間違っ  
呼んじ  
よな?

おわった…

…っ



ケヒッ

ケヒ

ヒヒ…ッ

「ハ」

「ハ」

「ハ」

「ハ」



小僧

なんとも  
愉快なことに  
なっているな？



そうだ

正確には違うが  
「そうだ」と言っても  
問題は、



—す

くな？

ないー

ズリ  
ツリ  
ツリ

…何だ

…だ  
宿儺だ…

人・時間・環境

全てが

自分の記憶と違う世界

ずっと不安だった

ここには俺の記憶を

肯定するものが

何もなかったから

この世界がおかしいのか

俺がおかしいのか

「悠二」と会った時

すぐに「宿儺」だと思った

だけど

そうじゃないと分かって

俺は確かに絶望した

自分を正当化したくて

「悠二」を「宿儺」だと

思い込んだんじゃないか

やっぱりおかしいのは

俺の方なんだと

でも宿儺がいた

オマエで安心するとか  
癪だけど

それでも







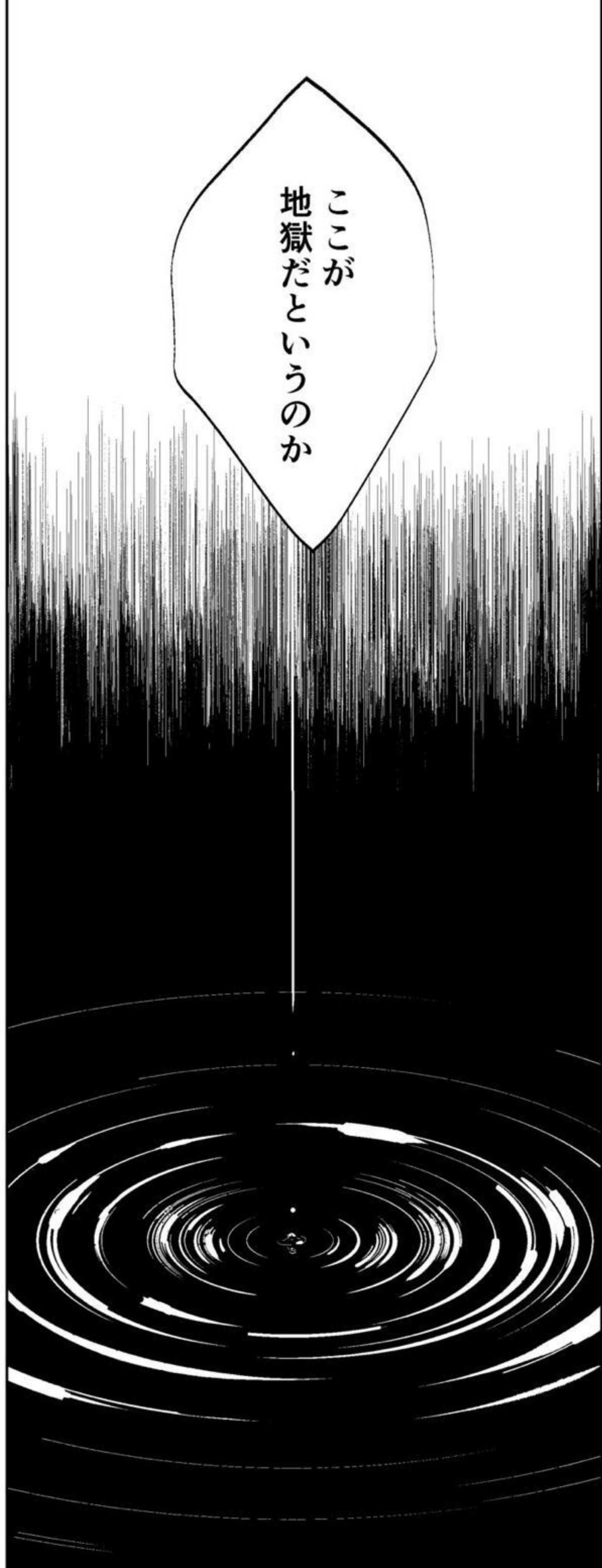
どう進んでも  
地獄しか待ち受けてない  
というのに

それでも  
進むか



進むしかねえだろ

言っとくけど  
テメーも道連れ  
だかな



ここが  
地獄だというのか



地獄に連れて行くと  
互いに呪い合った



その結末が  
これだというのか





# リメイク地獄—終劇—



御覧いただき

ありがとうございました！

アニメ楽しませよう～！

2020.10.2

chino